

# 碩心

社団法人 日本詩吟学院 岳風会 認可  
 神奈川 碩心 会 発行

6年 逗葉大合	1月 地区 地区 地区 計	現在 地区 地区 地区 計	会員数 159名 221名 422名 422名	6年 根編 中	1月 岸 村	(258号) 行者 集 岳 岳	萃 者 愛
------------	---------------------------	---------------------------	-------------------------------------	---------------	--------------	-----------------------------	-------------

## 新年のご挨拶

会長 根岸 岳 萃

明けましてお目出度うございます。会員の皆さんが、ご家族共々、良き新春を迎えられましたことお慶び申し上げます。

昨年は皆さんの絶大な御協力により、碩心会も発展しつつ、本年を迎えることができました。特に第一回神奈川地区吟道大会の合吟コンクールで、第二位に入賞されましたことは快挙であり、ひきつづき来る3月27日の全国吟道大会に出吟されることは、県下に自慢できることです。

本年も当会のモットーである“和”を中心に、楽しく吟道に精進され、先賢のこのされた立派な詩歌に接し、自己を磨き、地域社会の浄化と、文化の向上に、大いに活躍して下さい。

昨年からは大幅に準師範取得基準が緩和され、本年四月には大幅に準師範が増えてまいり、会員数も増加すると思えます。皆さんの活躍を大いに期待し、年頭のご挨拶と致します。

## 賀正



指導者一同より

根岸岳萃（会長） 加藤岳相（副会長）  
 千葉岳関（副会長） 三井岳龍（相談役）

（以下名簿順）

- |       |      |       |
|-------|------|-------|
| 沼田岳雷  | 小峰岳海 | 井沢岳潮  |
| 加藤岳洵  | 中村岳郵 | 竹石岳泓  |
| 中村岳愛  | 森田眺岳 | 岩崎恵岳  |
| 鈴木孝岳  | 守谷崇岳 | 山口夕岳  |
| 松野宝岳  | 杉山雪岳 | 秋本梁岳  |
| 鈴木萃岳  | 佐藤湧岳 | 矢島悦岳  |
| 黒崎李岳  | 綾部秋岳 | 村田瀨岳  |
| 渡辺秀岳  | 石渡桂岳 | 沼田義岳  |
| 清水耀岳  | 白井寿岳 | 白井麗岳  |
| 上村象岳  | 渡辺誠岳 | 一柳道岳  |
| 佐久間爽岳 | 木村松岳 | 寺脇宇岳  |
| 立沢御岳  | 小形雄岳 | 宇都宮徳岳 |
| 千葉美岳  | 松井正岳 | 高井定風  |
| 加藤芳風  | 水上昌風 | 西川幸風  |

## 平成六年度・主な行事予定

(総本部関係)

- 3・27(日)第104回全国大会：東京ベイNKホール
- 7・1(金)岳風忌：諏訪地蔵寺
- 7・23(土) 九段会館ホール
- 7・24(日) 日本教育会館

(県本部関係)

- 1・30(日)県本部初理事会：ワークピア横浜
  - 2・6(日)準師範講習会：平塚農業会館
  - 2・13(日)高段者審査会(皆伝)：平塚農業会館
  - 2・20(日) " (九段以上)： "
  - 5・8(日)県本部総会：湘南地区担当
  - 6・12(日)青少年神奈川地区大会：船中央公民館
  - 8・7(日)指導者吟道講座：横須賀  
ベイサイドポケット
  - 9・4(日)神奈川地区大会：海老名文化会館
  - 10・16(日)県本部40周年大会：横須賀芸術劇場
  - 11・20(日)高段者吟法講座：平塚農業会館
  - 11・26(土)県本部納会：横須賀第二地区担当
- (碩心会関係)
- 1・9(日)初吟会：逗子京急ビーチセンター
  - 3・20(日)春季審査会：逗子図書館ホール

## 準師範認許

この度、左記の方々が平成五年十月一日付で、右認許されました。新しい年に当り、ひとこと書いていただきました。

### 温かいお力添えで二十余年：

綾部 秋岳

皆様のお仲間に入れていただいて、はや二十余年の年月が過ぎました。その間、諸先生はじめ、先輩後輩の方々の温かいお力添えをいただき、落ちこんだ時は慰められ、又楽しい時は一緒に喜び、詩吟を習って本当に良かったと思っております。

この度、準師範の許証をいただき、身のひきしまる思いがいたします。まだまだ未熟な私でございますが、皆様の御協力をお願いしまして、努力したいと思っております。

先日、指導者講習会に初めて参加し、皆様方の指導者としてのあり方をみせていただき、大いに感ずるところがあり、微力ながらお役に立ちたいと思えました。今後共よろしくお指導の程お願いいたします。

## 和をモットーの会に支えられて

渡辺 秀岳

思えば吟の道に入ってから二十五年。こんなに長い道のりを歩むとは、夢にも思っておりませんでした。和をモットーとした会だからでしょうか。その間、先生方はじめ、皆様には色々とお世話になり、やつとここまでたどり着きました。

お陰様で今回準師範をいただくことができ、ありがとうございます。でも、いたずらに年月が長いだけで、それほどの力量もなく、今更の如く肩の荷の重さを感じております。今後指導者講習会に伺うことになり、先生方はじめ、皆様のお世話になります。どうぞよろしくお願いいたします。

## 責任の重大さを感じて

高井 定風

謹んで新年のお慶びを申し上げます。早いもので、堀内支部F教室にお世話になって、十四年目を無事に迎えられることになりました。人生で申しますとやつと中学生ですが、諸先生の御指導と、吟友の皆様の温かい励ま

しに支えられ、挫折することなく今日迄歩んでこられたことをまず御礼申し上げます。

さてこの度図らずも、根岸会長先生のお奨めと、矢島先生のご支援をいただき、準師範の資格を戴きました。何分にも私自身勉強中の身であり、とても人様を指導するなど、考えてもいませんでしたので、今茲に許証を手にし、つくづく責任の重大さを感じております。

これからは会の発展のために、微力ではございますが、精いっぱい頑張りますので、よろしくお願いいたします。

### 詩吟が響く！「葉山清寿苑」

加藤 芳風

初春を寿ぎ、心よりお慶びを申し上げます。平成五年十月一日付で準師範の認許を戴きましたが、入会以来ご指導下さいました諸先生、そして行きづまり、困った時には助け励まして下さった先輩の皆様方のおかげと、紙面をお借りして厚くお礼申し上げます。

私が微力ながら、老人ホームでお年寄りの生活をお手伝いさせていただくようになって三年になりますが、ある日、請われるままに

吟を披露したのがきっかけとなり、詩吟クラブが発足いたしました。手の指が全部変形してしまつて、教本を持つのが困難だと、暗躍されて頑張る方。脳障害を持ち、会話がままならなくても符付通り正確になめらかに吟じられる方。このお二人は車椅子の生活で、望んでも審査を受けられる状態ではありません。でも生甲斐をみつけれられた方々は、表情も、身体の調子も、見違えるように向上します。

昨年八月八日防衛大学に於いて、故人になられた安孫子岳晴先生の講義を受けましたが「素読を十分にし、漢詩の読みに味わいを見出し、白文に興味を持つこと」とご教示いただいたことを念頭におき、精進してまいる所存でございますので、今後共よろしく御指導賜りますようお願い申し上げます。

~~~~~ 8 ~~~~~

### 手毬

良 寛

冬ごもり 春さり来れば 飯乞ふと 草の庵を立ち出でて

里にい行けば 玉鉾の 道のちまたに 子供らが 今は春ベと 手毬つく  
ひふみよいむな 汝がつけば 我は歌ひ

我がつけば 汝は歌ひ

つきて歌ひて 霞立つ 長き春日を 暮らしつるかも

(反歌)

霞立つ 長き春日を 子供らと 手毬つきつつ 今日も暮らし

(語釈)

冬ごもり：「春」にかかるまくらことば。玉鉾の：「道」にかかるまくらことば。

ちまたに：つじで。「ちまた」は、道の分かれる所で「つじ」

今は春ベと：もうすっかり春になったといつて。「春ベ」は「春のころ」

良寛は新潟県出雲崎代々の名主の長男として、宝暦八年（一七五八）に生まれたが、十八才の時に突如、近くの寺にとび込み、出家した。のちに禅宗の僧となり修業を始め、その後曹洞宗の禅を学び、ひたすら座禅と学問に明け暮れ、三十八才の時故郷に帰ったが、実家には立ち寄らず、出雲崎から北へ20Kほど離れた国上山山中の五合庵に独居し、詩と歌と、ひたすら托鉢の生活に明け暮れ、子供と遊び、文人と交わり、農民や庶民を友とし、自然と融けあつた。

岳風流詩吟

丸山岳峰作

一、詩吟の道は人の道

吟ずる者は心して

声と節とにとらわれず

作者の心を吟ずべし

二、全身全霊打ち込みて

無我の境地で吟ずれば

吟ずる人も聞く人も

快楽無上の極となる

三、鳴鳴すばらしき詩吟道

昔を語り今を知る

邪心を捨てて真心で

詩吟の道を造るのだ

四、岳風流の吟道は

木村岳風先生が

身命を賭けて作られし

大いなる道永遠の道

大いなる道永遠の道

昨年末の指導者講習会の折、根岸先生が指導されました。作者丸山岳峰先生は長野県飯伊朗吟会

初春碩心会音頭

下山口支部 沼田静岳 作

碩心よい会素敵な会よ

今日は目出度いコリヤ友の笑顔チヲイケナ

みんな揃って詩文を学ぶ ドッコイシヨ

幸福リズムでコリヤ胸が沸くよチヲイケナ

海山河の手料理囲み ドッコイシヨ

乾杯音頭でコリヤ花が咲くよチヲイケナ

この幸福をいついつ迄も ドッコイシヨ

昇段めがけてコリヤがんばりましょう

(草津節で歌います) チヨイナ チヨイナ

小倉百人一首

「小倉百人一首」とは、藤原定家が、京都嵯峨野の小倉山に設けていた別荘「小倉山荘」で歌を選び、染筆したとされることによる呼称で「小倉山荘色紙」とも呼ばれる。

歌人百人から各一首を採るとい形式の秀選歌の最初であり、後にこれをまねた多くの歌集も生まれたが、単に「百人一首」といえどこれを指す。天智天皇から順徳院まで、奈良、平安、鎌倉の三代にわたる歌人(僧侶一人を含む男性七九人、女性二一人)をほぼ没年順に配列してある。

(支部名変更)

一色B支部を吟秀支部に

(支部長変更)

吟秀支部長関水滄岳退会に付大屋正岳に

(人会)

694 川瀬弘岳 横須賀市林五二二二七

(逗子A) ☎〇四六八一五六一四六五四

695 仁木紅風 葉山町長柄一四六一七二

(逗子A) ☎〇四六八一七五一四六六七

(退会)

26 齊田俊岳(大船A) 189 杉山初風(葉月)

190 山上良風(葉月) 245 中村国風(死)(銀詠)

538 緑川翔泉(下山口) 600 山田ふみ子(屯A)

648 佐藤美子(若葉)

今年も充実した一年に

自分の能力に応じた趣味をもち、多勢の人達との輪をひろげ、心にはりと、生き甲斐をもちましょう。

又、朝夕は必ず鏡に向い、頭髮の手入、衣服の配慮等、身だしなみを点検。他人に関心をもちたれなくなったら人間おしまい。

健康に注意し、趣味に励み、おしやれを楽しみ、今年も充実した一年にいたしましょう。